

RUBeC 演習を終えて

中野 世紀

Seiki NAKANO

物質化学専攻修士課程 1年

1. はじめに

私は2015年8月15日～8月31日の2週間、カリフォルニア州バークレー市にあるRUBeC (Ryukoku University Berkeley Center)にてRUBeC演習を受講した。滞在中はホームステイを行い、講義ではテクニカルライティングとプレゼンテーションスキルを行った。また、Keysight TechnologiesやUC Davisを訪問した。

2. 参加した目的

今回のRUBeC演習に参加した理由は3つある。

- ① 英語スキルの向上
- ② 海外の文化に触れ、自分自身の視野を広げる
- ③ 積極的に英語で会話をする。

これらのことを考え、この2週間で人間的に成長したいと思いRUBeC演習を受講した。

3. 授業内容

3.1 テクニカルライティング

水曜日を除く平日の午前中はテクニカルライティングの講義を受けた。このテクニカルライティングは自分自身の研究内容の英語要旨1枚の訂正を中心に行う。この講義では日本人が苦手とする冠詞 (a, an, the) の使い方や文章と文章を繋げる接続詞、英語文章の構成方法等を学習した。特に冠詞を適切に選択するのは難しく、理解するのに苦労した。しかし、何度も練習を行うことで最初の頃と比較すると、スムーズに使えるようになったと感じた。最終日には、添削を受け完成した要旨の内容を簡単に発表し、英語での討論を行った。この講義を通して、普段あまり行っていなかった、英語の文章を書くことが苦にならず当たり前になった。また、適切な英

単語を選択し論理的な英語文章を作成するスキルが向上した。

3.2 プレゼンテーションスキル



プレゼンテーションの様子

午後はプレゼンテーションスキルの講義を受けた。プレゼンテーションスキルの講義では国際学会で発表できるように、英語でのプレゼンテーションスキルの向上を目的としている。英語を話す上で重要となる発音やイントネーション、文章を適切な間隔で分け重要な英単語を強調するなどの、英語で伝えるスキルを学んだ。また、プレゼンテーションでは声の大きさ、ジェスチャー、アイコンタクト、発音、イントネーションの5つが重要なポイントであると教えていただいた。最終日のプレゼンテーション発表会では1人5分間、自分の研究内容を英語で発表した。私はすべて英語で発表した経験はなく緊張したが、貴重な経験となった。発表を通して自分の成長や足りない部分を知ることができた。この講義を経て、英語で伝える能力は行く前と比較して格段に成長したと感じた。

4. 企業および大学訪問について

RUBeC演習の2週間のうち、1週目の水曜日には企業訪問としてKeysight Technologies社、2週目の水曜日には大学訪問として龍谷大学の協定校であるカリフォルニア大学デービス校に訪れた。Keysight Technologies社は世界100ヶ国以上約9500人の従業員が働く世界有数の計測機器メーカーであ

る。社内は広く、非常に清潔であり精密な機器を扱うために常にクリーンな社内を保っておられた。また、Keysight Technologies社は製品の研究、製造、出荷までの全ての過程を行なっておられた。そうすることで、特有の製品に関する技術流出を防ぐことが出来る。自社の製品に対する思いや意識の強さを感じることができた。さらには、カフェ、社員が使用できる菜園や筋肉トレーニング室、卓球台など、ありとあらゆる設備が完備しており日本の会社では見ないような雰囲気であった。社員の方々はリラックスした感じに見え、いきいきとしておられた。私も、Keysight Technologies社のようなクリエイティブかつリラックスできる海外の会社に就職したいと思った。

次週に訪問したカリフォルニア大学デービス校はカリフォルニア大学システムに属する1校であり、カリフォルニア州サクラメント市の近くであるデービス市に位置する。アメリカ合衆国における公立（パブリック）の大学の中での名門校を指す「パブリックアイビー」の1校でもあり、農学が盛んであり生物関連の研究設備は非常に充実している名門校である。私が想像していた以上に広く、キャンパス内には家が存在していた。その他にもボーリング場や消防署、飛行場も備わっているらしく、敷地面積は22km²とのことだった。大学全体がひとつの街のようであった。また、そのように広いためキャンパスの移動には自転車が必須らしく、自転車や自転車に乗っている学生は数多く見られた。自転車が通行しやすいようにロータリー交差点が設置されていた。キャンパス内にはバスが運行しており、バスの運転手は学生が行なっているとのことだった。私た

ちが通っている龍谷大学や日本の大学では考えられないことばかりであり、驚きの連続であった。研究室の方も見せていただいたが、グローブボックスなど私の研究室にもある装置もあり、日本の研究室と雰囲気はほとんど変わらず親近感を覚えた。しかし、設備は充実しており建物は非常に大きく、多数の実験が行える部屋が存在する研究のしやすい環境が整っていた。日本の大学との違いや学問に対する意識の高さを感じることができた。

5. ホームステイ生活について

ホームステイ生活ではすべての会話は英語であり、英語を聞き取り英語で伝えなければならない。初日はシャワーの時間や洗濯の日程などのルールを理解すること、ホストマザーに夕飯の有無や何時に家を出発、帰宅するなどを伝えることに苦勞した。しかし、時間が経つにつれ少しずつ、英語が聞き取れるようになり、話の内容が理解でき簡単な英語で伝えることができた。海外の地で、海外の人と共に暮らすホームステイ生活は非常に貴重な経験となった。

6. おわりに

このRUBeC演習を通して、海外へ実際に訪れ、海外の文化と触れ合うことで、海外への意識が強まったと感じる。しかし、今回のプログラムで英語コミュニケーション能力は向上したが、不自由なく英語でコミュニケーションを取れるほどの力は身につけていない。この経験をきっかけに、さらに英語のスキルを向上させたいという意識が芽生えた。